

小泉八雲活かした焼津市の活性化に関する研究Ⅱ —焼津&八雲YYプロジェクト—

静岡県立大学 国際関係学部 細川光洋ゼミ

指導教員：教授 細川光洋

参加学生：原田幸枝、青島沙紀、佐々木真子、鈴木麻友子

平松里苗、倉田麻有、生熊美汐、澤野華世子

阿部風香、伊澤芳美、魚取あすか、奥野華純

金子美生、狩野諒奈、小林美紅、榛葉佳奈

守屋佳奈

1. 焼津&八雲YYプロジェクト（継続課題）

『怪談』で知られる文学者小泉八雲（ラファディオ・ハーン）は、晩年、夏の避暑地としてしばしば焼津を訪れ、家族とともに水泳などをして過ごした。八雲は、焼津の風物や伝承をもとに、「焼津にて」「乙吉のだるま」「漂流」等の作品も残している。焼津小泉八雲記念館における展示をはじめ、小泉八雲顕彰会による顕彰も継続して行われているが、八雲にちなむ土産物が地元でほとんど企画されることがないなど、地域とのつながりという面では課題があった。

こうした現状をふまえ、昨年の夏、静岡県立大学細川光洋ゼミ（日本近代文学専攻）と焼津小泉八雲記念館、焼津市観光協会の三者の連携によって立ち上げたのが、「焼津&八雲YYプロジェクト」である。小泉八雲とその文学作品を「地域の文化資源」としてとらえ、文学を通して地域の魅力を広く発信していくことを目指している。また、八雲作品の重要なモチーフである「妖怪」を緒口として、学生たちの柔軟な発想力をもとに、これまで文学に関心のなかった若者層へのアピールを図ることもねらいとしている。

本年度は昨年の実績をふまえて、地域と連携したプロジェクトを継続・発展させ、その成果発表となる秋の焼津小泉八雲記念館開館10周年記念シンポジウム「地域資源としての文学」の開催を目標に活動を行った。

2. 研究の目的

本研究は、「地域資源としての文学」をプロジェクトテーマに、焼津市ゆかりの作家小泉八雲と地域とを結びつけ、新しい地域デザインに取り組み、焼津市の潜在的な魅力を発掘し、活性化させることを目的とする。

2年目となる本年は、地域NPO法人や自治体と連携し、外部への発信力を持つプロジェクトへの展開を目指した。

3. 研究の内容

本プロジェクトが昨年来課題として取り組んでいるのは、以下の2点である。

○小泉八雲に関連した焼津の特産品がない。[PRできるグッズがない]（観光協会）

○焼津小泉八雲記念館を訪れる来場者のほとんどが年配層であり、若者層の関心を高めたい。（記念館）

以上の課題に取り組むために、①小泉八雲にちなんだ商品の開発提案、②八雲作品と地域とを結びつける学生による朗読会などのイベントの実施、を行うことを決定。この企画方針に基づき、以下の4. 成果(2)のような活動を行った。本年は、NPO法人浜の会や焼津市役所との連携により、地域のニーズ（地域から求められているもの）に応えるかたちで企画を立案した。

また、企画提案を充実させるために、八雲作品をゼミで読み込み、焼津の八雲ゆかりの地を実際に歩くフィールドワークを行っている。単に調査するだけでなく、そこでの「気づき」を具体的な提案・行動に繋げていくことを心がけてプロジェクトに取り組んだ。

4. 研究の成果

(1) 当初の計画

昨年度からの継続課題であるため、当初の計画通り4つの取り組み課題をほぼすべて実施することができた。「商品開発」「朗読会」の企画の他に、シンポジウムの実施と併せて「八雲焼津文学散歩コース」の冊子制作を考えていたが、今回はシンポジウム自体の内容の充実を優先させた。「文学散歩コース企画」については、次年度に実施する継続課題としてすでに計画の検討を行っている。これについては、(4)今後の改善点に挙げた。

(2) 実際の内容（Aは予定どおり、Bは一部修正、Cは中止など）とその理由

A：予定どおり

「商品開発」「朗読会」については以下のように実施し、外部からの評価も得ている。なかでも、焼津市役所若者倶楽部と共同制作を行った「やいちゃんLINEスタンプ」の商品化（八雲妖怪担当）、「地域資源としての文学」をテーマに松江の学生たちを招聘して行ったシンポジウムのパネルディスカッションは、成果を地域に発信し、還元するという意味で手応えがあった。実施プロジェクト全体としては、「A評価」としてよいと考えている。

(3) 実績・成果

「焼津&八雲YYプロジェクト」の本年度の主な活動実績は、以下の通り。

①朗読会「八雲で奏でるYaidzuノスタルジー」の開催（於：焼津小泉八雲記念館）

6月24日（土）に、焼津小泉八雲記念館開館10周年記念事業として開催。焼津にちなんだ八雲作品「焼津にて」「漂流」を、箏曲の伴奏附で披露した。浪音や亡霊の声など、演出を工夫し好評を得た。また、この朗読会において昨年度ゼミで作成した「八雲手拭い」「妖怪手拭い」の市販化を発表、併せて販売を行った。朗読会の模様は「静岡新聞」6/26朝刊に写真入りで紹介されている。

②「焼津浜通り 第10回夏のあかり展」での朗読会並びに妖怪行燈8基の制作出展（於：焼津 常照寺）

8月5日（土）焼津浜通りで開催される「夏のあかり展」で朗読会を開催。「焼津にて」「耳なし芳一」を県大箏曲部の協力のもとに朗読した。また、主催するNPO法人浜の会と共同で行燈制作を行い（7月）、八雲の妖怪行燈8基を出展した。朗読会については、「日経新聞」8/19朝刊に写真入りで紹介されている。

③「やいちゃんLINEスタンプ」の焼津市役所との共同制作【5月～8月】

焼津市役所若者倶楽部、イラストレーター・徳田有希氏と共同で、焼津市のマスコットキャラクター「やいちゃん」をもとにしたLINEスタンプを制作。細川ゼミは八雲の妖怪と「やいちゃん」のコラボデザイン10ヶを担当した。八雲の妖怪をLINEスタンプ化することは、昨年秋の公開プレゼン以来提案してきたことであり、継続した活動が評価され、実を結んだといえる。「やいちゃんLINEスタンプ」の制作については、8月7日（月）に焼津市役所で制作発表会を行い、「静岡新聞」8/8朝刊に写真入りで紹介された。

④シンポジウム「地域資源としての文学～小泉八雲による地域づくり～」の企画・開催（於：焼津市文化会館小ホール）

10月8日（日）小泉八雲来焼120周年と焼津小泉八雲記念館開館10周年を記念して開催。第一部は紺野美沙子による朗読会。第二部のシンポジウム・パネリストとして学生が登壇し、YYプロジェクトのこれまでの取り組みを紹介、島根県立大学短期大学部「ゴーストみやげ研究所」の学生とともに事例発表を行った（司会進行は細川）。八雲の曾孫である小泉凡氏、八雲研究者の梅本順子教授（日本大学）、焼津小泉八雲顕彰会会長の松永六郎氏を交えたディスカッションで「地域の文化資源」としての小泉八雲に光をあて、松江-焼津の連携をもとに、全国の八雲ゆかりの地（熊本・神戸）が連携して魅力づくりをすすめる「八雲タウン」構想を提案した。

当日の参加者には、八雲の『妖魔詩話』のスケッチをもとに学生が制作した「妖怪クリアファイル」を、ノベルティグッズとしてレジュメとともに配布した。シンポジウムについては、「静岡新聞」10/13朝刊の一面コラム「大自在」でも話題として採り上げられている。

(4) 今後の改善点や課題

(1) 当初の計画項でもふれたが、地域と八雲文学とを結びつける「八雲焼津文学散歩コース」(ゴーストツアー) 企画、および冊子づくりが課題として残っている。この「文学散歩」企画については、焼津小泉八雲記念館に藤枝市郷土博物館・文学館(藤枝市)、中勘助文学記念館(静岡市)をあらたに加え、「駿河の文学3館めぐり」(仮称)のバスツアーとして、静岡市文化振興財団とともに2018年秋の実施を計画している。焼津での活動を核に、周辺地域と連携することで「地域の文化資源」としての文学の可能性をさらにひろげていきたいと考えている。いわば文学を地域の観光資源として活用していく試みである。2018年春には静岡空港からFDA静岡―出雲便の就航も始まり、「小泉八雲」による松江との連携もいっそう深まることが期待される。

現在、小泉八雲の焼津に関する作品をまとめて読むことができる本がない。「文学散歩コース」の企画とともに、八雲の作品が地域で読み継がれていくための基盤づくりが今後の課題といえよう。単に観光資源として活用するだけでなく、焼津において小泉八雲の知名度を高めることが、プロジェクトの推進には不可欠であると考えている。

5. 地域への提言

秋に開催したシンポジウム「地域の資源としての文学～小泉八雲による地域づくり～」では、全国の八雲ゆかりの地(松江・焼津・熊本・神戸)が連携して魅力づくりをすすめる「八雲タウン」構想を提案した。FDA静岡―出雲便の就航は、「小泉八雲」を共通の文化資源として持つ焼津にとっても大きな情報発信のチャンスといえる。松江の地域づくりプロジェクトを一つの先行事例として、焼津発のオリジナリティある企画がのぞまれる。

また、近年「文豪とアルケミスト」の人気を契機として、若い世代も文学の「聖地巡礼」に高い関心を示している。首都圏に近い焼津は、小泉八雲ゆかりの地として魅力ある場所である。学生たちのアイデアも十分に活かせる領域であろう。

6. 地域からの評価

昨年度から活動を行ってきたこともあり、地域からは活動への理解と一定の評価を得てきた。NPO法人や自治体との連携も、来年度に向けて継続して進んでいる。

「焼津&八雲YYプロジェクト」はアウトリーチ活動の一つとしてTwitter(八雲焼津プロジェクト)を利用し、活動のツイート(発信)に対して多くの励ましの言葉をいただいている。

https://twitter.com/y_y_project

これらの成果をもとに、次年度以降も「責任を持った提案」ができるプロジェクトとして、地域とともに課題に取り組んでいき、期待に応えたいと考えている。

〈焼津&八雲YYプロジェクト 2017〉



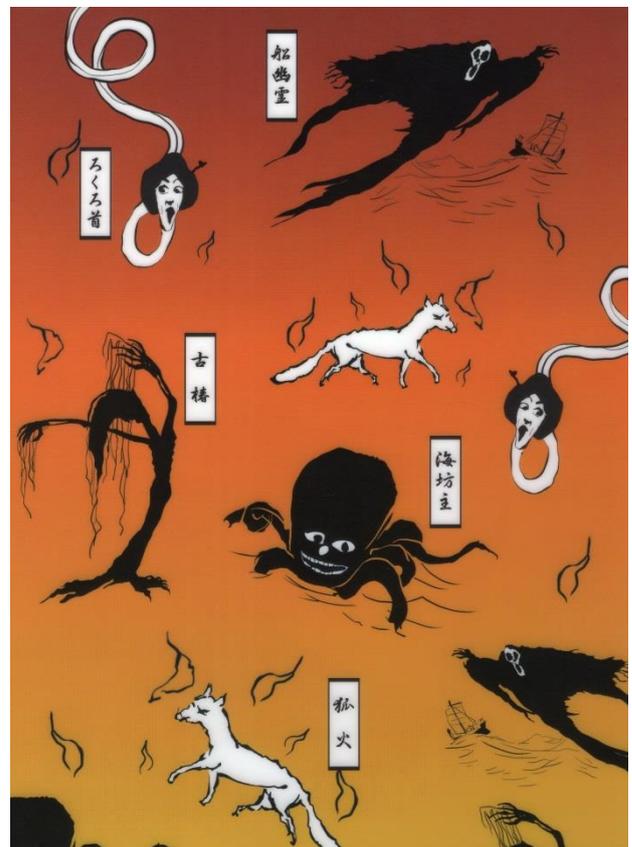
8/5 「第10回夏のあかり展」八雲作品朗読会
(焼津市浜通り 常照寺)



8/7 「やいちゃんLINEスタンプ」制作発表会
(焼津市役所)



10/8 シンポジウム「地域資源としての文学～小泉八雲
による地域づくり～」パンフレット



八雲のスケッチによる「妖怪クリアファイル」
(シンポジウムのノベルティグッズとして制作)